

# 2024年度 学校評価報告書

対象期間： 2023年4月1日 ～ 2024年 3月31日

学校法人 センチュリー・カレッジ  
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー



# I. 2024年度 学校関係者評価委員会 開催記録・議事録

## 1. 日時及び場所：

- (1) 日時：2024年7月17日（水） 18:30～20:00
- (2) 場所：専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 第3教室

## 2. 出席者

### (1) 学校関係者評価委員

- 松崎 充意 （一般財団法人石川県予防医学協会 理事長）
- 酒井 安代 （保護者）
- 長谷田 敦志 （公立南砺中央病院 リハビリテーション室 主任）
- 田中 茉美 （医療法人社団博友会 金沢西病院 作業療法士）
- 野倉 克利 （医療法人積仁会 岡部病院 地域医療部 副部長）

### (2) 本校教職員（オブザーバー）

- 狩山 信生 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）
- 山本 達也 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局長）
- 曾山 薫 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長）
- 種本 美雪 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 副校長 兼 作業療法学科 学科長）

## 3. 欠席者

なし

[ 敬称略 ]

## 4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員長挨拶
- (3) 2023年度 自己点検・評価 報告
- (4) 2023年度 決算報告
- (5) 各委員会の2023年度 活動報告と2024年度 重点目標および取組み
- (6) 学校長挨拶
- (7) 閉会

## 5. 配布資料（PDF）

- ・ 評価シート 2024年度 学校評価
- ・ [資料 1] 学校概要
- ・ [資料 2] 2023年度 決算報告書
- ・ [資料 3] 各委員会の重点目標及び施策

## 6. 議事録

- (1) 学校関係者評価委員会 委員長挨拶
- (2) 2023年度 自己点検・評価 報告（評価シート／副校長兼作業療法学科学科長 種本）
  - ・ 自己点検・評価の結果の補足説明
  - ・ 学校関係者評価委員の意見等に関する本校の取組み状況の説明

<スクールカウンセラーについて>

松崎委員) スクールカウンセラーに寄せられる相談内容はどのようなものが多いですか？

種本) 情報開示されたものに限ると、昨年度は人間関係のトラブル、学業に関する悩み、そして心身の不調に関する相談が多く寄せられました。

- 曾山) 学生生活の悩みが中心になりますが、その中には高校時代から不登校傾向があったり、生きづらさを感じていること、家庭環境の悩みを打ち明ける学生も多いと聞いています。悩みを抱える学生は自らカウンセリングを希望することが多く、また、学生生活に変化が見られる学生に対しては、教員側からカウンセリングを促すことが多かったと記憶しています。
- 松崎委員) カウンセラーの方のサポートのお陰で、学生は困難な状況でも踏みとどまって頑張ることができているのですね。その結果、学校としても退学者の抑制につながっているのですね。
- 曾山) はい。理学療法学科では学業不良などで一定数の退学はありましたが、作業療法学科においては、カウンセラーのサポートの成果がでていたのではないかと感じています。
- 狩山) 震災の影響で家族の問題や住宅環境が変わったり、国家試験前に大変な思いをした学生もいましたが、教員ではないカウンセラーに話すことで、精神的に楽になれたと学生から聞いて、本当によかったと思いました。
- 田中委員) カウンセラーのカウンセリングもそうですが、家庭の環境が、退学に至るまでのモチベーションの変化に大きく影響していると思いますので、保護者の協力も不可欠だと思います。  
カウンセリングの形式はメールなどですか？
- 種本) カウンセリングは基本的に対面で行っており、保護者との連携も従来から行っています。しかし、学生の背景が多様化しているため、学生対応に関する相談など、より密に情報共有を行っています。

(3) 2023年度 決算報告 (資料2 / 事務局長 山本)

(4) 各委員会の2023年度 活動報告と2024年度 重点目標および取組み (資料3 / 校長 狩山)

・委員会活動について補足説明

<教育活動について>

- 田中委員) 働くことのイメージや就労に対する理解が不足している学生が増えていると感じています。個人差もあるかと思いますが、新人の指導をしていると、基本的なことを1から教える必要が多いです。そのため即戦力として活躍できるように、働くことに焦点を当てた教育に取り組むのも良いのではないかと思います。
- 種本) クラス内の能力のばらつきもありますが、臨床実習の在り方が変わってきていることが大きな理由だと思います。極端に言えば、見学のみで模倣や実施に至らない実習になり、治療も含めた実践的な経験が減っています。そのため、作業療法学科としては、臨床実習指導者にリストを提示して、最低限実施してほしい内容をお願いしています。
- 曾山) 少し余談になりますが、関東方面の採用担当の方と新人研修の話題で、最近では学生の積極的に学ぶ姿勢が少し減少している傾向があると伺いました。具体的には「教えてください」よりも「なぜ、教えてくれないのですか」という姿勢が研修期間に目立つようです。  
この傾向の原因として、学校内や実習内の指導体制の変化が影響しているかもしれないとお話しました。今年の卒業生から教育課程改正後の臨床実習が行われており、法律的な制約で学生が患者さんに直接接触することが制限されています。これにより施設の指導体制に差が出る問題もありますが、施設の種別も多様であるため、均一化は難しいのが現実です。

そのため、理学療法学科としては、学生が実習から戻った後、1年生と2年生が同じ項目をお互いに練習をしてスキルを確認するプログラムや、教員が付き、帰ってきた3年生が他学年にスキルを指導する等、自分の復習と学生の技術向上を図る学年を跨いだプログラムを策定しています。患者さんに対するものとは異なりますが、取り組み方、気持ちの持ち方を変えて取り組み、そのうえで実習内容についても施設と協議しながら提言しています。

<学生の募集活動について>

長谷田委員) 退学者数が多いという話題は、入職後の離職率の高さに繋がっているように感じます。仕事のイメージと実際の業務のギャップから、早期に退職を選択するケースが見られ、別の仕事に転職することが多いです。このような状況が、卒前教育の質や卒後教育の問題に起因しているのか、考えてしまいます。

イメージのギャップの原因を明らかにして、解消に向けた対策を講じる必要があります。学生さんがこの学校を選んだ理由や、入学時に持っていた期待やイメージについて具体的に聞いていますか？

狩山) 自分が怪我をして理学療法士にお世話になった経験からこの職業に憧れを抱いたという動機が多いです。その次は3年間ですぐに働きたかったという理由です。

長谷田委員) 3年制のメリットを考えた時に、ターゲットを高校生以外のオーバーエイジや社会人経験者のリスキリングを視野に入れることも一つの方法かと思います。そのような方々には、予防分野で活躍している卒業生を招いて、医療分野以外にも様々な働き場所があることをアピールすることで学生募集に繋げていくことも良いアイデアだと思いますし、卒前教育の授業で話をしてもらうことで、学生の視野を広げるのも良いと思います。

<委員長より総括>

松崎委員) まず大切なことは、学生の満足度を把握することです。同時に、保護者の満足度を高めることも重要です。学生がイキイキと学生生活を楽しみ、仕事に対するモチベーションを持って目標に向かっていくこと、そしてその先に希望する就職先に合格することが求められています。また、就職先には即戦力と認められる人材を輩出することも重要な要素です。

大学全入時代となり、大学や専門学校は淘汰される時代に突入しています。そのため、先んじて策を実践し、後手に回らないようにすることが非常に重要です。何卒よろしく願い申し上げます。

(5) 学校長挨拶

以上

(記録：橋本尚子)

## Ⅱ. 2023年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書

対象期間： 2023年4月1日 ～ 2024年3月31日

評 価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

1. 教育理念・目標				
自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
1-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.6	→ 3.6	学 校	<p>3.2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の理念などは定められていると思うが、周知に関しては何らかの形で確認しているのでしょうか。</li> <li>学校理念の浸透には時間が必要になるかと思います。地道に情報発信していくしかないかと思います。</li> <li>理念等と実際の教育が具体的にどのようにリンクされているのかということを経験者、学生双方が理解し易い「分かり易さ」があれば、より良いかと思います。</li> <li>父兄にご理解を頂くためには、複数回の説明が必要かと思います。</li> <li>常に目標をもって進むことは大切な事だと思っています。3年間の中で指導して頂きながら、ひとりひとりが自分の中で、どういう医療人になりたいかを考え、卒業後も常に目標を持ちながら仕事にも励んで欲しいと思っています。</li> </ul>
1-(2) 医療福祉業界の要望・意見等を踏まえた学校の将来構想を策定しているか	3.3	↘ 3.1	学 校	
1-(3) 学校の理念・育成人材像・教育目標などが学生・保護者等に周知されているか	3.1	↘ 2.9	学 校	
1-(4) 育成人材像・教育目標は、医療福祉業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.2	→ 3.2	学 校	
【課 題】		【今後の改善方策】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>理念などは定められ、パンフレット等に記載があるが学生、保護者には浸透していない。保護者に対する情報発信の方法や、保護者説明会開催日時の工夫が必要である。</li> <li>育成人材像・教育目標を掲げて指導をしていくことが、現在の学生にとって堅苦しくなっている印象がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者会議でアンケートの実施や学校関係者評価委員会の提言など、継続して意見を聴取していく。また、国家試験の受験資格以外の学校の魅力作りと発信を急務として取り組む。</li> <li>保護者メールアドレスの活用方法を明確にする。また、保護者説明会等の開催日時の設定を平日・土日複数回行ったり、オンデマンド配信の可能性など検討する。</li> <li>学校の理念・育成人材像・教育目標を目に付くところに明示する。また学生に向けて説明等をする際の一覧表やマニュアルを整備する。</li> </ul>		

【 成果・特記事項 】
・昨年度より新入生保護者に対する説明会を再開している。

## 2. 学校運営

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
2-(1)	医療福祉分野の職業教育を念頭においた運営方針・事業計画が策定されているか	3.2	↗ 3.4	学 校	3.2 ・新体制に変わっていく中で組織の再編などが課題になるかと思えます。ICTやDXなどを上手く活用して頂きたいと思えます。 ・新体制に期待しています。 ・業務の分担が曖昧とのことなので、そちらを早急に見直すことが求められていると思えます。それがロスのない、より働きやすい職場づくりにもなるので、ご尽力いただければと思えます。 ・先生方のまとまりが、学生のまとまりにも影響してくる部分もあると思えます。
2-(2)	意思決定機能、指示命令系統は組織機能図において明確化されているか	2.9	↘ 2.6	学 校	
2-(3)	前項(意思決定機能、指示命令系統)は有効に機能しているか	2.7	↘ 2.3	学 校	
2-(4)	就業規則は整備され、教職員が常に確認できるようになっているか	3.6	↗ 3.8	事 務 局	
2-(5)	人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.3	→ 3.3	事 務 局	
2-(6)	学校運営に関する情報公開が適切になされているか	3.6	→ 3.6	自 己 評 価 委 員 会	
2-(7)	組織体制の整備、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.0	↘ 2.9	事 務 局	

【課 題】	【今後の改善方策】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の業務の分担が曖昧であり、組織図に沿わない動きになることもあり、責任・権限が分かりにくいことがある。また、職員への説明や情報共有が不足している。</li> <li>・稼働している情報システムが複数あり、煩雑になっていると感じる。組織整備や業務分掌がなされていないので情報システムの合理化を進めることは難しいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が同じ研修を受けることで組織体制や運営に関して、同じ見解を持つ。また組織図の見直し、責任・権限の見直しを行い、担任や各委員の業務内容を明確にし、記しておく。</li> <li>・業務の棚卸、システムの本格化の推進。</li> </ul>

【 成果・特記事項 】
・Teams を活用し、全職員が情報発信、共有が出来ている。次年度から新体制に移行予定なので業務の効率化などが期待できる。

## 3. 教育活動

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
3-(1)	学校の理念・育成人材像・教育目標に沿った教育課程(カリキュラム)が体系的に編成されているか	3.4	↘ 3.0	教育課程編成委員会	・教育活動の成果が「国試」の合格率になって表れてくるものだと思います。今後18歳人口の減少する中で、受験生が
3-(2)	学科の修業年限に対応した教育到達レベルを明確し、学習時間の確保はされているか	3.4	↘ 3.1	教育課程編成委員会	

3-(3)	医療福祉分野の病院施設や団体との連携により、実践的な職業教育の視点にたった教育課程(カリキュラム)の編成・見直し等が行われているか	3.6	↘ 3.1	教育課程編成委員会	3.2	<p>進学先を選ぶ上でも国試の合格率がポイントとなります。そのために1年1年が大切となりますので、教育活動の弛まぬ強化が最も重要なことと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験への対策も含め、教える側の見えない努力は多々あるかと思います。修業年限が3年間ということで時間を有意義に活用して頂きたいと思います。</li> <li>自分達に身近な卒業生の人に体験を踏まえた講義に来てもらうなどはどうでしょうか？かたい授業ばかりではなく、時々そういう機会があると、就職した後のイメージもしやすく、小さな悩みの相談もしやすいように思います。</li> <li>グループ学習等の方法で成果が見られているようでとても良いと思います。働く環境によってはカンファレンスもあり、簡潔に発言することを練習できるとよいと思います。</li> <li>3年間ですべてを学ばなくてはいけないのでとても大変ですが、難しいとは思いますが、1人1人のやる気に繋がるような工夫をしてもらえたらと思います。</li> </ul>	
3-(4)	医療福祉分野の病院施設における実践的な職業教育(実習等)が教育課程(カリキュラム)において体系的に位置づけられているか	3.4	↗ 3.6	教育課程編成委員会			
3-(5)	実習や講義等を委託する場合、教育目標及び教育到達レベルを明確にしているか、情報共有を図っているか	3.5	↘ 3.4	教務委員会			
3-(6)	授業評価の実施体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.7	→ 3.7	教育課程編成委員会			
3-(7)	授業評価結果に基づき、目標設定および授業改善が行われているか	3.3	↘ 3.2	教育課程編成委員会			
3-(8)	外部(卒業生、保護者、医療福祉分野の病院施設や団体、地域社会等)からの評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか(アンケート、訪問・会議によるヒアリング等)	3.5	↘ 2.8	自己評価委員会			
3-(9)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.4	↘ 3.3	教務委員会			
3-(10)	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	3.4	↗ 3.6	国家試験対策委員会			
3-(11)	学校の理念・育成人材像・教育目標の達成に向けて計画的に人材(専任教員・非常勤講師)を確保しているか	3.2	↘ 2.9	学校			
3-(12)	医療福祉分野の病院施設や団体との連携において、要件を備えた人材(非常勤講師)を確保しているか	3.6	↘ 3.4	学校			
3-(13)	教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取り組み(講座・研修の受講、資格取得支援、各種学会・会議への参加等)はあるか	3.4	↘ 3.2	学校			
3-(14)	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる組織的な取り組み(講座・研修の受講、専門家による指導等)はあるか	3.2	↘ 2.8	学校			
<b>【 課 題 】</b>		<b>【今後の改善方策】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価は項目が多い上に、授業科目数分を記入する負担が学生にとっては大きい可能性がある。</li> <li>授業評価結果に基づいた改善がなされているか不明確。教授力を向上させる組織的な取り組みが行えていない。</li> <li>改善取り組みは担当委員会が主導して取り組まれているというより、学科単位で検討・修正しながら構築されているという印象がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>評価項目数、内容を検討し簡略化する。また建設的な意見が記入されるような工夫をする。</li> <li>人材確保について、エージェントを使ってのリクルートも検討していく。</li> <li>現在依頼している非常勤講師に引継ぎを見越し相談をおこなっていく。</li> <li>各自が持つ研修等の情報を共有し、参加しやすいものを選択しやすくなる配慮をする。</li> </ul>					
<b>【 成果・特記事項 】</b>							

特になし

## 4. 学修成果

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
4-(1)	就職率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.3	↘ 3.2	就職支援委員会	<p><b>3.0</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生間における専門職または学習へのモチベーションの差はあるかと思えます。学生個々に見合った指導もかなり難しい課題かと思えます。</li> <li>・退学者が多いように思えます。入学もなんとなく…という学生が多いのでしょうか。どうすれば、1人1人のやる気に繋げていけるのか難しいですが、入学した以上、頑張ってもらいたいですね。</li> <li>・卒業生の動向を整理し、難しいかと思えますが、石川県内や近隣で働いている方が年に一度は集まれる機会があれば理想と考えます。その時に現役学生と交流をしていただき、仕事の魅力を伝える機会となれば良いと思えます。</li> </ul>
4-(2)	資格取得率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.3	↘ 3.2	国家試験対策委員会	
4-(3)	退学率を把握し、その上で低減に向けた具体的な対策を実施しているか	2.9	→ 2.9	教務委員会	
4-(4)	卒業生のキャリア形成(社会的な活躍や評価)を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	2.9	↘ 2.6	教育課程編成委員会	
【課題】		【今後の改善方策】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各目標値設定、対策はなされていると思うが、学生の理学療法士・作業療法士になりたいという意欲がついてきていないように感じる。</li> <li>・退学者の情報は共有できるようになったが、退学予備軍に関しては情報があまりない。個々に具体的な対策は講じているが、学校・学科としての取り組みとして構築出来ていないように感じる。</li> <li>・卒業生の交流が年々減っている、あるいは学科による差が大きいように感じている。卒業生の社会的な活躍を把握しきれない。情報交換はあるが整理することができていない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士・作業療法士の資格の魅力を学生に伝える方法を模索する。</li> <li>・定期的に学生の状況を把握する時間を設ける。退学に繋がる主たる原因はどこにあるのか、事由が発生あるいは発生しそうになった際にどういったアプローチができるのか、できたのかを情報共有する機会を確保する。</li> <li>・卒業生の動向を整理することが理学療法士・作業療法士の活躍の変化を捉えることにもつながるので、情報を整理し、卒業生を活用し現場の状況に即した教育を進める。例えば「卒業生支援委員」など、組織として実施できる継続可能な方法を検討する。</li> </ul>			
【成果・特記事項】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な対策として個別面談などを頻回に行っている。</li> </ul>					

## 5. 学生支援

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
5-(1)	学生の進路・就職に関する体制(運営組織、制度)は整備され、有効に	3.6	↘ 3.2	就職支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震での支援活動に</li> </ul>



	機能しているか			委員会	<p>多くの卒業生が活躍されているとのことで、とても心強く思いましたし、卒業生の心には学校の教育理念がしっかり根付いているのだと思いました。そのようなことから、現役学生への支援強化はもちろん、卒業生のフォローや同窓会組織の強化を行い、且つ学生との交流も図ることができれば、学生は仕事をより身近に感じられるようになり、学習に対してのモチベーションも上がるのではないかと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学費はやはり高いので、奨学金制度は検討してもらえるとありがたいです。学生の駐車料金も、もう少し支援していただくとありがたいです。</li> <li>・学生相談に関する体制と退学率が比例しているよう感じます。どこまでを学校側が負担するかも問題ですが、保護者にも協力を得てもよいかと思えます。</li> <li>・スクールカウンセラーが、学生の相談などを実際対応しているのでしょうか？退学者が多いですが、退学を決める以前に、もっと入っていただくなど、できるといいと思います。</li> <li>・石川県専修学校各種学校連合会球技大会への参加やサークル活動などを通して学生への支援は上手くなされているかと思えます。</li> <li>・就職活動に関しては北陸地区における医療機関への就職がかなり難しい状況になってきていると思えます。可能な限</li> </ul>
5-(2)	学生相談に関する体制(運営組織、面談記録、定期的な実施)は整備されているか	3.3	→ 3.3	事務局	
5-(3)	学生の経済的支援に関する体制(奨学金制度、減免制度)は整備され、有効に機能しているか	3.3	↘ 3.2	事務局	
5-(4)	学生の健康管理に関する体制(運営組織、健康診断の実施)は整備され、有効に機能しているか	3.5	↗ 3.6	事務局	
5-(5)	学生主体の課外活動(学生会活動、ボランティア活動、クラブ活動等)を奨励・支援する体制はあるか	3.3	↘ 3.1	学生会支援委員会	
5-(6)	前項(課外活動支援に関する組織体制)は有効に機能しているか	3.2	↘ 2.8	学生会支援委員会	
5-(7)	学校生活指導・勉学指導への支援は行われているか	3.6	↘ 3.2	教務委員会	
5-(8)	保護者へ学校情報の提供や面談を行い、適切に連携しているか(ホームページ、保護者報告会等)	3.3	→ 3.3	教務委員会	
5-(9)	卒業生のフォローアップ体制はあるか(卒業後研修、同窓会組織、1年後訪問、ホームページ等)	2.7	↘ 2.6	学校	

					り学生の希望に沿った支援をお願いします。
【課題】			【今後の改善方策】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>独自の奨学金制度の規模が小さい。</li> <li>実習・学業成績などによる就職活動の時期の多様化に対応する必要がある。</li> <li>課外活動は学生主体の活動ではあるが、各学年の学事が異なるため日程の調整が難しいこと、委員会に所属していても参加しない学生も存在するため、個人的な活動になっているように思う。また教員の介入が多くなりがちであり、臨床実習が重なる時期などは担当教員にかかる負担が大きく、活動機会が限られてしまう。</li> <li>卒業生へのフォローアップ、研修は少なくなった。</li> <li>卒業生から相談があった時に個別のフォローアップはしているが、卒業生全体への定期的なフォローアップ体制はできていないと思う。卒業生の活動の場が多様化しており、卒後研修を組みにくい。同窓会費を卒業時に徴収しているが、それを活用する場が計画されていない。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学生個々の意向を把握し就職活動の見通しを定める。</li> <li>現行の減免制度は社会人入学生のみを対象とする制度であるため、現役生入学生に対しても奨学制度や減免制度を創設する。</li> <li>在学している学生間のつながりを持てるように小規模・短時間の活動を企画する。学生が主体で動けるように、目標や役割を明確にする。また、個々の活動においても奨励する制度を検討する。教職員全体で支援し、活動を活性化させていく。</li> <li>就職先の分野毎にテーマを決めて定期的にオンライン研修を開催する。年1回でも日程を先に確保して企画をする。過去に実施したように文化祭と併せて研修開催を検討する。</li> <li>同窓会組織だけでは活動計画立案、実行までの負担が大きく、学校組織としても支援の必要性を検討する。</li> </ul>		
【成果・特記事項】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>能登半島地震に対する災害リハビリテーション支援活動において、多くの卒業生の献身的活躍を見聞きしている。実際の被災地への支援は元より、事務、調整役としても卒業生が中心的役割を担い、石川県民の医療・福祉を支えている。</li> <li>スクールカウンセラーを配置し、週1回半日在校する体制で継続的な対応を行っている。</li> <li>地域貢献活動や市のイベントへの参加など、希望する学生に対して自主的に活動できる体制を整えている。</li> <li>今年度入学生の保護者に対し、入学時に保護者説明会を開催した。</li> <li>作業療法学科では卒後教育として年間を通して症例検討や症例発表を通じた活動が出来た。院内発表や臨床研究の支援が一部可能だった。</li> </ul>					

6. 教育環境					
自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
6-(1)	学校施設・設備は定期的に管理・点検され教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.4	↘ 3.3	備品管理委員会	<b>3.0</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>開学して20年近く経過しており物品やハード面の劣化は否めないと感じています。</li> <li>下記の改善策をしっかりと実施いただくようお願い申し上げます。</li> <li>防災安全対策、又、感染対策はとても大事です。コロナも5種扱いとなりましたが、医療人として、気を緩めずお願いしたいです。</li> </ul>
6-(2)	教育上必要な図書が系統的に整備されているか	3.5	↘ 3.3	図書委員会	
6-(3)	実習施設や国内外の研修等は整備されているか	3.5	↘ 3.4	学校	
6-(4)	防災・安全対策(非常時の避難、誘導対策面、危機管理マニュアルの周知)は整備されているか	3.6	↘ 3.1	事務局(庶務課)	
【課題】			【今後の改善方策】		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業をするうえで問題はないが、物品の劣化が進んでおり最新の検査器具等が少ない。学校施設・設備の長期使用に伴い、定期的なメンテナンスが必要。</li> <li>・臨床実習の受け入れに際し、石川県、北陸地域における協力機関の減少。</li> <li>・今年度は避難訓練が未実施であり、緊急時の対応が教員と学生間で共有されていない。学生の防災に対する意識低下が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物品の劣化が進んでいるものは買い替える。最新の検査器具等の導入や使用できる人材を増やすための研修への参加を行う。備品について、動作確認やメンテナンスを行う予定を決めておく。</li> <li>・実習先の確保は臨床実習の指導者との顔の見える関係作りを継続的に行う。</li> <li>・消火訓練、避難訓練を実施し、学内で被災した際の行動を学生と職員で共有する場を設ける。</li> </ul>
--	---

<p>【 成果・特記事項 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全館の照明をLED化した。</li> <li>・電子書籍（定期購読雑誌）の導入が進んでいる。電子書籍を増やすなど、学内外に必要な図書を閲覧できる環境が整備された。</li> <li>・研修が再開し、ドイツフェルカー校が来日して対面交流ができた。</li> </ul>
--

## 7. 学生の受入募集

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
7-(1)	学生の募集活動において、教育成果・実績等は正確に伝えられているか	3.5	↘ 3.4	事務局 (入試課)	<b>3.2</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳人口の減少で、他校との競合はより激しくなります。今後も受験生に選ばれる学校となるよう、しっかりとタスク管理を行っていただきたいと思えます。</li> <li>・養成校が多数存在し、かつ少子化で今後の状況を読むのも難しいと思えます。</li> <li>・医療系の学校はどれも学費が高いですが、確かに本校は他に比べて高いと思えます。分納制度はいいと思えます。やはり実習にかかる金額は高額なので、入学や受験に踏み切れない人がいるのだと思えます。</li> </ul>
7-(2)	入学志願者の問合せ・相談に対する体制が整備され、情報提供(育成人材像、資格、学費・教材費、選抜方法)は適正にされているか	3.5	↗ 3.6	事務局 (入試課)	
7-(3)	学納金は妥当なものとなっているか	2.9	↘ 2.7	事務局 (入試課)	
7-(4)	入学辞退者の授業料に関して適正な扱いを行っているか	3.6	↘ 3.5	事務局 (入試課)	
7-(5)	入学予定者への入学前課題等の学習指導を実施しているか	3.7	→ 3.7	入試委員会	
7-(6)	入学予定者に対してオリエンテーションを実施し、学校生活のための支援をしているか	3.7	↘ 3.6	入試委員会	

<p>【 課題 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川県内の同分野他校と比較して学納金が高い。学納金が高いこと、又分納制度も無いことで受験先の選択から外れる事が考えられる。</li> </ul>	<p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の養成校が競合する中で、学納金の引き下げを検討する。</li> <li>・学納金が上がった分、それ以外の教育関係の経費負担を極力下げられるようにする。</li> <li>・学納金が高くても当校の魅力・入学することによるメリットを伝える。学習・就職支援について行っている内容を具体的に伝える。</li> <li>・学納金の引き下げや、分納制度の復活、学校独自の奨学金制度の拡充、成績優秀者の奨励制度の新設、実習費用の支援など、幅広い受験者層の受け入れを検討する。</li> </ul>
--	---

<p>【 成果・特記事項 】</p>
--------------------

- ・オープンキャンパスやガイダンスへの教員の参加を積極的に行っている。
- ・入学辞退する可能性のある合格者に対しての学納金納入猶予制度を作った。
- ・入学前課題の遂行状況より、退学傾向の強い学生を割りだし、年間通じて学生支援に役立てた。

## 8. 財務

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
8-(1)	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.7	↘ 2.5	事務局 (経理課)	3.0 <ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍学生数の確保は、まずは受験者数を減らさないことが重要であります。そのためにも考えられるできる限りのことは、他校よりも先んじて実現させることが重要だと考えます。</li> <li>・養成校の更なる増加と少子化の影響は否めないと思えます。在学生に影響のないよう配慮をお願いします。</li> <li>・入学者数が減少していると聞き、心配しています。</li> </ul>
8-(2)	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、また定期的に確認しているか	2.9	↗ 3.1	事務局 (経理課)	
8-(3)	財務について会計監査が適正に行われているか	3.3	↗ 3.4	事務局 (経理課)	
8-(4)	財務情報公開の体制を整備し、適正に運用しているか	3.2	↗ 3.3	事務局 (経理課)	
【課題】		【今後の改善方策】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳人口の減少や近隣に同分野校の新設があり、在籍学生の確保が課題である。入学者が減少しているため、財政の変化があり、中長期的に安定しているとは言い難いと思う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・減収による影響を正確に算出したうえで、教育活動は担保できる対策を進める。志願者数増加のための授業料減額や事業規模の縮小を検討する。</li> <li>・志願者数を増やすためには、何をおいても国家試験合格率を上げることを優先する。</li> </ul>			
【成果・特記事項】					
特になし					

## 9. 法令等の遵守

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
9-(1)	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	3.3	→ 3.3	事務局	3.2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の改善方策の実施をお願い申し上げます。</li> <li>・法令遵守でお願いします。</li> </ul>
9-(2)	学生および職員の個人情報について閲覧権限等の設定がされ、個人情報保護の対策が講じられているか	2.9	↗ 3.2	事務局 (庶務課)	
9-(3)	文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)、決裁規程(文書処理規程)、公印管理規程が文書化されているか	3.4	→ 3.4	事務局 (庶務課)	
9-(4)	自己点検・評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.7	↘ 3.5	自己評価委員会	

9-(5)	自己点検・評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.3	↓ 3.0	自己評価委員会		
9-(6)	自己点検・評価結果を公表しているか	3.8	↓ 3.6	自己評価委員会		
9-(7)	学校関係者評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.8	↓ 3.5	自己評価委員会		
9-(8)	学校関係者評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.2	↓ 2.9	自己評価委員会		
9-(9)	学校関係者評価結果を公表しているか	3.8	↓ 3.6	自己評価委員会		
<b>【課題】</b>		<b>【今後の改善方策】</b>				
・多くの課題を優先順位を付けたり取捨選択の判断をしていることは理解できるが、その内容について教職員へのフィードバックや改善方策についての情報共有が不十分であると考える。		・教職員が行う年度ごとの目標設定や改善策に、自己点検・評価結果の内容が盛り込まれるようにする。				
<b>【成果・特記事項】</b>						
特になし						

## 10. 社会貢献・地域貢献

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
10-(1) 学校の教育資源や施設を提供し、社会貢献・地域貢献を行っているか	3.4	↓ 3.3	事務局	<b>3.2</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動を通して地域貢献されていると思います。今後も継続して行なって頂きたいと思います。</li> <li>・ボランティア活動などは積極的に力をいれておられると思います。</li> <li>・病院や老人施設などのイベントにボランティア参加することもいい勉強になると思います。アピールにもつながるし、就職にもいいつながりができるのでは？特に老人施設はボランティアは助かりますよ。</li> <li>・能登半島地震の影響により、共生社会の推進がより求められてきています。是非学生の皆さんの活躍を期待しています。</li> </ul>
10-(2) 地域に対する生涯学習事業(公開講座、教職員の出張講座)の提供や教育訓練(公共職業訓練を含む)の受託等を実施しているか	3.5	↓ 3.4	教員広報委員会	

<b>【 課 題 】</b>	<b>【今後の改善方策】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・地域貢献を行っているが学内全体で行っている感じではない。</li><li>・コロナ禍により学校の施設提供を行いにくくなっている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員・学生を教育資源とみなし、外部に派遣することに力を入れる。</li><li>・教職員の出張講座は増えているが、公開講座はできていない。</li></ul>
<b>【 成果・特記事項 】</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・金沢市と「雪かきボランティア」を提携している。金沢市から「共生社会推進事業者」の認定を受けている。</li><li>・金沢マラソンのボランティアに参加した。</li><li>・長年の献血活動、ボランティア活動によって県から表彰を受けた。</li></ul>	